

出題分析					
試験時間	90 分	配点	200 点		
大問数	4 題				
分量 (昨年比較)	〔減少 同程度 増加〕		難易度変化 (昨年比較) 〔易化 同程度 難化〕		
【概評】					
<p>今年は空所補充の 1 題がマーク形式に変更され、マーク形式が 1 題、空所補充が 2 題、記述式が 1 題となった。形式が変わっただけで、例年どおり正しく計算ができれば完答できる問題が多い。1 の小問集合は問題数は変わらず、難易度も特に変化はない。2～4 は典型的な問題が並んだが、2 は計算、3 は数え上げがしっかりとできないといけない。</p>					

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	〈全問マーク形式〉 数列 ・数列の和	等差数列と等比数列の積の和を求める問題。 等比数列となっている部分の公比 2 を両辺に掛ける。	標準
		三角関数 ・2倍角の公式 ・三角関数の不等式	やや易
	数と式 ・絶対値を含む方程式	絶対値を含む 1 次方程式の解に関する問題。 絶対値記号の中の式が「0 以上」「0 未満」で丁寧に場合分けして絶対値記号を外す。	やや易
		図形と方程式 ・円と直線の位置関係	標準
2	〈空欄補充形式〉 微分法 積分法 ・面積 ・回転体の体積	数学IIIの微分・積分に関する定型問題。計算ミスに注意して解き進めていけばよい。(2) の $f(x)$ の最大値は、4 次関数 $\{f(x)\}^2 = x^2(5-x^2)$ を微分しても求めることができる。	標準
		取り出したカードに関する確率の問題。(1) を丁寧に考えれば、(2) はその結果を使えばよく、 $X \leq 12$ は書き出せばよい。(3) は余事象をうまく使えるかがポイントである。	標準

代々木ゼミナール

4	<p>〈記述形式〉</p> <p>対数関数 ・対数関数の最大 微分法</p>	<p>対数を含む関数の問題. 計算ミスに気を付けたい. (3) はグラフで考察する. (2) で求めた 3 次関数のグラフ $u=g(t)$ と $u=a$ のグラフがちょうど 2 つの共有点をもつ場合で, 直線 $u=a$ は極値における接線になっている.</p>	標準
---	--	--	----

過去 3 年間の出題範囲

年度	数学 I				数学 A			
	方程式・不等式	集合と論証	2 次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と 人間の活動	
2026	[1](3)				[3]			
2025					1			
2024					[1](2)			
年度	数学 II					数学 B		
	高次式	複素数	図形と 方程式	三角関数	指數 対數	微積	数列, 数学的 帰納法	
2026			[1](4)	[1](2)	[4]	[4]	1	
2025	[1](3)			[3]	[1](2)		[2]	
2024	1, [2]			[2]			[1](3)	
年度	数学 III			数学 C				
	関数	極限	微分	積分	平面 ベクトル	空間 ベクトル	複素数 平面	2 次曲線
2026			[2]	[2]				
2025				[3]	[4]		[1](4)	
2024		[1](3)	[4]	[4]		[3]		

※[]内の数字は大問番号, ()内の数字は小問番号をそれぞれ表す。

合格のための学習法

1 の小問集合は例年どおりの難易度であった. 手早く 1 を解き切るために, 過去問演習を通じてしっかりと練習しておきたい. また, 日頃から丁寧に計算することと, 複雑な計算もしっかりとやり切るようにしておきたい. 典型問題・頻出問題の演習と計算力を付けることが合格への近道だろう. 今回の日程では数学 C 分野からの出題がなかったが, おそらくバランスよく勉強してほしい.

代々木ゼミナール